

2023年4月16日 「愛に建て上げられる教会」 (エフェソ4:11-16)

教会に来られる方の多くは、教会が世の中とは違ってほしいという期待を持って訪れますが、やがて、教会が世の中とは変わらない面を持つことに気づき、失望してしまう事がある。でも、よく考えてみると、教会に集う人たちはクリスチャンであっても、世の中で毎日生活していますから、教会が世の中と似ていても不思議ではありません。聖書を見ても、教会に内部対立が起きたり、個々の争いがあったり、分裂騒動もあった。

ところで教会とは何でしょうか？ギリシア語で「エクレシア」呼び集められた者たちと言う意味です。神が私たち一人ひとりを、ここに呼び集められた。パウロはその教会に対して次のように言った。教会は現状に留まるのではなく成長しなさい、そして愛によって教会を建て上げて行きなさい。

エフェソの信徒への手紙4章11-16節の短い中に「成長」という言葉が3回も出てきます。

13「キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです。」

15「愛に根ざして真理を語り、あらゆる面で、頭であるキリストに向かって成長していきます。」

16「おのおのの部分は分に応じて働いて体を成長させます。」

私たちの信仰は成長しているのでしょうか？成長が止まっているのでしょうか？それとも後退しているのでしょうか？信仰（霊的）の成長は自然に起こるものではなく、私たちが成長したいと願い、成長するのだと決意し、成長にこだわり、努力することが必要である。結果1年後、5年後、10年後、信仰が成長し、生活の中で豊かな実を結んでいる自分を想像してみてください。

私たちの成長に関して必要なことはたくさんありますが3つの事をお伝えします。

1、聖書を読むこと。1日15分ずつ聖書を読むと、1年で全巻読めるそうです。24時間の内のたった15分、これも決断と努力が必要です。

2、自己中心や利己主義といった未熟な考え方を捨てていくこと。

「兄弟たち、物の判断については子供となつてはいけません。悪事については幼子となり、物の判断については大人になってください。」(コリント(一)14:20) 幼子は自己中心的です。自分に必要なことしか考えません。人に与えることもできません。幼子ゆえに未熟なのです。わたしたちはこの利己的な考え方を捨てていくことです。これにも決断と努力が必要です。

3、成熟したものの考え方を身に着けていくこと。

パウロは相手の事を考えられるかどうかで、その人が成熟しているかどうかを知ることができると言った。「幼子だったとき、わたしは幼子のように話し、幼子のように思い、幼子のように考えていた。成人した今、幼子のことを捨てた。」(コリント一13:11)

多くの方が、聖書の知識や教理の量によって霊的成長を測ろうとする。知識は成熟度をはかる一つの目安になるが、それが全てではない。信仰生活は信条や知識をはるかに超える行動と人格を含むものです。信仰は宗教や哲学ではない。生き方です、その生き方は「おのおの善を行って隣人を喜ばせ、互いの向上に努めるべきです。キリストもご自分の満足はお求めにはなりませんでした。」

(ローマ15:2) 人の身になって考える事が、キリストのようになる本質であり、霊的に成長している何よりの証拠です。だが、このような考え方は、思いや努力だけでは出来ません。しかし、幸いなことに私たちには助けがあります。「わたしたちは、世の霊ではなく、神からの霊を受けました。」(コリント(一)2:12) 成長を願う者には聖霊による助けがあるのです。

次に、愛によって教会を建て上げる。

「キリストにより、体全体は、あらゆる節々かが補い合うことによってしっかり組み合わされ、結び合わされて、おのおのの分に応じて働いて体を成長させ、自らの愛によって造り上げられてゆくのです。」他の訳は、愛によって建て上げられていくとある。

そのために必要なこと

1, 一致をしていくこと。

教会の一致を守るのは、私たち一人一人の努めです。一致を破壊する者になってはいけません。パウロは私たちに「さて、兄弟たち、わたしたちの主イエス・キリストの名によってあなたがたに勧告します。皆、勝手なことを言わず、仲たがいせず、心を一つにし、思いを一つにして、固く結び合いなさい。」(コリント(一)1:10)と言われた。

2 情熱を持って教会を愛していくこと。

私たちは教会に対する理想と教会の現実とのあまりの違いに、簡単に希望を失ってしまう事がある。しかし、たとえ教会が不完全であっても、私たちは情熱を持って教会を愛さなければなりません。同じクリスチャンに失望させられたりすることもあるが、それでも私たちの家族です。

私たちが覚えておかなければならないのは、教会は罪人の集まり、それ故、私たちは傷つけ合ってしまうのです。しかし、私たちは教会を去るのではなく、可能な限りそこにとどまって問題に取り組む必要があります。逃避ではなく、和解です。その愛が人格を成長させ、深い交わりを築くのです。時には自分の事よりも他人のこと、教会を優先しなければならない事もある。でも神は、その事をとて喜んで祝福してくださる。

3 批判するのではなく、励ますこと。

教会の中で問題が起こってくると、こんな教会は教会ではないと言ったりする事がある。しかし、教会にどんな問題があり、混乱があっても、それは、そこに集まっている人々に間違いがあるのであって、教会は神の教会、キリストの体なのです。それぞれの生きた器官が互いに機能しながら一つの体となって動くのです。パウロは起きた問題点だけを見ないで、その本質を見つめなさいと言った。それは、教会は生きたキリストの体であること。これは教会に対してだけではなく、人に対しても同じ事が言えます。その人の悪いところだけを見て、あの人は駄目だとか、どうしようもないとか言って、相手を裁いたり、責めたり「失格」というレッテルを貼ってしまう。そうではなく、相手を責めるのではなく、その本質を見るということ、それは、この人も神は愛されている存在である。

4 うわさ話をさける。

「うわさ話し」に対し、世の人々はうんざりしている。そこで教会も同じだったらどうなりますか？教会を建て上げて行くには「うわさ話」を避けること、耳を傾けてはいけません。「秘密をばらす者、中傷し歩く者、軽々しく唇を開く者とは交わるな。」(箴 20:19)「木がなければ火は消える。陰口を言う者が消えればいさかいは鎮まる。」(26:20)とある。

世の人々は口には出さないが、愛を求め、自分が必要とされたいと思っている。そして自分を受け入れてくれる場所を探している人々がたくさんいる。この仙川教会はそういう人々の満たしの場所となりたい。そのためにも、先に招かれた私たちは愛をもって教会立ち上げていきたい。「神から招かれたのですから、その招きにふさわしく歩みなさい。」と仰せられたように、互いに愛し合い、いたわり合い、励まし合い、そして仙川教会に行くと温かくて元気が出てくる、新しい人があの仙川教会はもう一度行ってみたいと思うような教会を目指しつつ、一致を守り、情熱を持って教会を愛し、相手を批判するのではなく、励まし、うわさ話をさけて、教会を愛していきましょう。